

平成 15 年度第 3 回府中市次世代育成支援行動計画検討協議会議事録

時間 平成 16 年 3 月 23 日 14:00～16:30

場所 府中市駅北第 2 市役所北庁舎 3 階第 2～4 会議室

出席委員 浅田委員 小川委員 小熊委員 北川委員 北場委員 木下委員 澤野委員
杉村委員 庭山委員 平田委員 弓削田委員

欠席委員 北村委員 山村委員

次第

1. 開会
2. 傍聴人の入場について
3. 資料の確認

議題

1. 府中市子育て支援に関する市民意向調査 調査結果概要（資料 1）について
2. 府中市の子どもを取り巻く現状と課題（資料 2）と府中市福祉計画（「子育て支援」部分）及び行動計画策定指針・府中市の既存関連計画の記載事項（資料 3）について
3. 平成 16 年度 4 月以降の府中市次世代育成支援行動計画検討協議会の開催スケジュールについて
4. その他

1. 開会
2. 傍聴人の入場について

子育て支援課長

本日は、お忙しいところ、また、とても寒いところ、少し離れた会場へお越しいただき、ありがとうございました。それでは、第 3 回府中市次世代育成支援行動計画検討協議会をはじめさせていただきます。今日は傍聴にたくさんの方のご希望がありまして、最初に入っていたいてよろしいでしょうか。

委員会一同 了承

3. 資料の確認

子育て支援課長

それでは、議事に入る前に、資料について確認をさせていただきます。まず、資料 1「府中市子育て支援に関する市民意向調査 調査結果概要」でございます。これは事前に配布させていただきました。後ほど、ご説明いたします。次に、「府中市の子どもを取り巻く現状と課題」で、児童数等の数字をおさえたものでございます。次に資料 3「行動計画策定

指針」の7つの分野・項目に合わせまして、既存の関連計画の項目をとりあえず表示したものでございます。これについても後ほどご説明します。以上の3点は事前に配布させていただきました。その中で、資料2につきましては、一部数字、グラフの部分3ページに間違いがありまして、本日差し替えをさせていただきました。

今日、当日お配りしております参考資料は3点あります。1つが、この検討協議会の今後の開催スケジュール案です。案の1と案の2、2枚のペーパーを今日お渡ししております。次が、「第1回府中市次世代育成支援行動計画検討協議会議事要旨」、同じく「第2回府中市次世代育成支援行動計画検討協議会議事要旨」ということで、これは今後、こういうふうに進めたいということでございますが、次の会に、前回の簡単なまとめを作りまして、それをご提出したいと思っております。したがって、今回第3回目ですので、第1回目と第2回目のものを用意しました。3点目が、朝日新聞の2月16日の切抜きの記事でございます。以上が本日の資料でございます。よろしく願いいたします。それでは会長、議事をお願いいたします。

会長

それでは、3回目ということですので、みなさん大分、少し緊張が取れてきて、活発なディスカッションができればと期待しております。今日の大雑把な予定としては、資料に市民意向調査の概要が出てきておりますので、メインはそれを報告していただいて、議論をするということです。それで、調査でわかること、わからないこと、あるいは、もしかしたら課題のようなものが皆さんの議論の中で出てくるといいなと思っております。それが一段落したところで、次回以降、特に新年度の審議予定・進め方等について、ご相談をしていただきたいと思っております。それと、マッピングと勝手に言っておりますが、地図と申しますか、府中市の地区ごとでどういう資源があり、どういう課題があるかということを考えていきたいと思います。私が申し上げておりますので、そのことも最後にお話をさせていただいて、次回以降の審議事項についてある程度最後に決めていきたいと思います。

それでは資料のご説明をいただきたいと思っておりますが、順序を、恐縮なのですが、資料の2「府中市の子どもを取り巻く現状と課題」の説明を先にさせていただいて、その後で市民意向調査の概要を報告していただきたいと思っております。よろしく願いいたします。

子育て支援課長

では最初に資料2「府中市の子どもを取り巻く現状と課題」というものをご説明させていただきます。これは、児童人口や世帯数の推移の状況等をまとめたものでございます。

まず1ページ目で、「少子化傾向に逆行する児童人口の増加」ということで、全国的には減少傾向にあるのですが、府中市はそうではないという資料でございます。文章があまりありませんので、読ませさせていただきます。「本市の人口はゆるやかな増加傾向にあります。都心から30分圏内である地理的条件の良さから、近年多くのマンションが建設されており、そのため流入人口が流出口を上回っています。総人口の中で14歳以下の児童人口の占める割合をみると、年々低下の傾向にあります。これは65歳以上の老人人口が増加していることに大きな影響を受けています。なお、総人口の中でも児童人口だけをみると、全国的には減少傾向にあります。本市においては0～4歳は平成6年、5～9歳は平成

8年を底に増加傾向にあります。出生数の伸びがそれほど大きくないことを考えると、この若年者の人口増は、小さな子どもを抱えた子育て世帯が数多く市外から流入していることが予想されます。」ということでございます。

2ページへいきまして、ここでは今の説明の中の年齢区分別の人口推移のグラフでございます。例えば、0～4歳、一番下の墨でつぶしてある部分ですが、この部分は真ん中くらいから少しずつ増えていくような数字になっております。

続いて、2の「核家族化の進展」でございます。「本市における世帯数は、総人口と同様に年々増加傾向にあります。その一方で、一世帯あたりの人員数は年々減少を続けており、これは全国ならびに東京都の数字を大きく下回っています。なお、住民の世帯構成としては、三世帯が同居する世帯の割合は低下傾向にある一方で、両親と子どもだけの世帯、もしくは片親と子どもといったひとり親世帯が増えています。ひとり親家庭が増えている背景には、離婚件数の増加があるといえます。」ということで、このグラフでは上の点々でつないだ線が平均世帯人員数で、年々小さくなってきております。棒グラフは、世帯数ということで、これは年々増え続けているというグラフです。

ページをおめくりいただきまして、次のページ、ここは今の説明の「世帯類型」について、平成7年と12年を比較したものでございます。その下の棒グラフは離婚件数でございます。事前にお送りした資料では14年のところが477と落ち込んでおりましたが、正しくは、今日お配りした747ということで、昭和60年から一貫して増え続けているというグラフです。

次に3「日中の子どもの居場所」です。「近年、本市における女性の就業者数は増加傾向にあり、全就業者のうち、4割が女性となっています。しかし、子育て期の女性の就業率は依然として5割を若干上回る程度に留まっており、多くの女性が家庭で子どもの面倒をみていることが予想されます。そのため、本市の幼稚園、保育園のいずれかに通っている就学前児童のうち、半数以上が幼稚園に通っています。なお、児童人口が増えていたり、保育園に入れない待機児童が比較的多いため、本市でも保育園の定員を増やしてきた結果、待機児童の数は減少傾向にありますが、依然として100人を超える数の待機児童が登録されています。また、小学生に関しても女性の就業率の上昇にともなって学童クラブに通う子どもが年々増えつつあり、小学校1～3年生のうちの4分の1が学童クラブを利用しています。」

次のグラフですが、「年代別の女性就業率の推移」ということで、まず、一番下が昭和60年、黒丸を一定波線でつないだものがそれです。それで、ポイントが×になっていて、波線でつないだものが平成12年ということで、総体としては平成12年のほうのグラフが上に押し上げられている形になっています。

次のグラフが「保育園児、幼稚園児の推移」ということで、下の黒くつぶしてあるものが、保育園に通っているお子さんの数で、上の網掛けの部分が幼稚園児数ということになっています。年々、少しずつ増えておまして、13年の幼稚園児の占める割合が57.4%、平成10年、これが一番上にいっておりますが、ここが幼稚園児数の占める割合が59.2%という状況になっております。13年以降、13、14と数字がありませんが、この数は全体としてまだ伸びております。

次のページ、5ページに行きまして、「待機児童数の推移」ということで、先ほどの説

明で、年々減ってきている印象の文章になっておりますが、ここに 14、15 を加えますと 14 年が 248 人、15 年が 206 人ということで、年々減ってきた待機児童数が、13 年を底にまた上がりはじめています。一方で、定員拡大や新設等をやっているがらの結果ということでございます。

次が「学童クラブの利用状況」で、これは年々増えてきておりまして、小学校 1 年から 3 年の全体に対する学童クラブのお子さんの割合というのが、平成 13 年のところで 23.6%、大体 4 人に 1 人が学童クラブへ通っているということで、この割合が少しずつ高まっております。

以上簡単ですが、現状の課題ということで説明させていただきました。

会長

ありがとうございました。それでは引き続き、意向調査の概要の報告をお願いしたいと思います。

富士総研

続きまして、資料 1 の「府中市子育て支援に関する市民意向調査 調査結果概要」についてご説明させていただきます。まずお断りさせていただきたいのが、これはまだ調査結果概要ということで、クロス集計結果が入っておりません。単純集計の結果が中心となっております。また、保育ニーズの数量的な推計結果につきましては、まだ数字の処理が若干、時間がかかりますので、5 月にお示しさせていただくという予定です。ですので、基本的には単純集計の結果、しかも保育ニーズの数量的な結果を除いた部分ということでご理解いただければと思います。

それでは、内容についてご説明させていただきます。まず 1 ページ目をお開きいただきまして、「調査対象者及び家庭の属性」ということで、子どもの年齢、これは回答があった子どもの年齢ですが、就学前児童につきましては概ね各歳とも同じような比率で回答がありまして、小学生につきましては若干、小学 1、2、3 年生の数が多いという結果になっています。回答者の属性としては、このほうで、就学前の児童で 9 割が母親、小学生では 84.5% が母親という形になっております。

続きまして 2 ページに行ってくださいと、「世帯構成」ですが、就学前で 87.1%、小学生で 79.8% と多くが二世帯の世帯で、両親と子どもの核家族世帯という形になります。先ほど現状分析の結果でもありましたが、ひとり親世帯につきましては、就学前では 1.4%、小学生では 4.9% と、小学生になると数が増えている傾向がございます。

居住地域は以下の通りですが、白糸台、是政、四谷といった地域で数が多く見られております。

父母の就労状況ですが、母親の就労状況を見ていただきますと、「無職・家事専従」が就学前では 64.0% で、それが小学生になりますと 45.7% ということになりまして、その差の多くが「パート・アルバイト」という形で、小学生になりますと就労を再び始める層が増えているということが予想されます。

続きまして 3 ページ目にまいりまして、世帯として共働きか共働きでないかということで整理をしておりますが、共働きという割合は就学前が 30.7% で小学生が 45.1% です。ち

なみに今、この処理の中ではひとり親家庭につきましては「共働きでない」という類型の中に含めております。

主な保育者の就労場所ですが、市内と市外がほぼ二分するという形になっております。若干、市内のほうが多い傾向がございます。以上が属性でございます。

4ページ目から「子育ての実態と意識」ということで、以下、結果の中から主なものを抜粋してお示ししています。まず、「子どもの日中の過ごし方と居場所」ということで、4ページに挙げているグラフは、就学前の親子が普段遊びに行ったり過ごしたりしているところはどこかということであつた結果です。一番多いのが、「公園・児童遊園」こちらが83.5%挙げられておまして、それに続くものとしては、公共施設ではなく、「親戚宅」「知人・友人宅」という形になっております。公共施設の中で最も使われております「文化センター」にしましても、13.9%という結果になっております。なお、この問いにつきましては、3つまでの複数回答という形になっておまして、ちょっと表記がややこしいのですが、グラフの左上方に3LAとありますが、こちらが3つまでの複数回答ということでご理解ください。以下も同じでございます。

5ページでございますが、こちら3つまでの複数回答をしていただいておりますが、こちらは小学生が普段過ごしているところでございます。まず平日につきまして、上のグラフですが、1番多いのが「友達や兄弟姉妹と公園など外で遊ぶ」というもの、これが53.7%、次いで2番目に「学習塾や習い事に行く」で、3番目が「友達や兄弟姉妹と家の中で遊ぶ」というような形になっております。

5ページの下、こちらは土曜日の小学生の過ごし方ですが、1番多いのが「自宅で家族と過ごす」、2番目が「家族とレジャーや買い物に行く」、3番目に「友達や兄弟姉妹と公園など外で遊ぶ」ということで、家族とかなり過ごしているという状況がみられています。

6ページにまいりまして、これは日曜・祝日ですが、こちらも土曜日と同じような傾向でございますが、家族と過ごす割合が多くなっているという結果がみられています。

続きまして7ページでございますが、こちらは「文化センターの利用状況」ということで、これは小学生を対象に調査した結果ですが、「文化センターを利用したことがある」という回答が88.4%と、10人に9人程度は利用したことがあるという結果になっております。そして、そこで提供されている子ども向け講座への参加状況については、「参加したことがある」が57.8%と、これも6割近くが参加したことがあるという結果になりました。ここでは自由記述で文化センターの機能や子ども向け講座に関する意見を挙げていただいておりますが、いくつか抜粋だけしたんですけれども、「身近な場所がない」、「設備が乏しい」、「常勤の職員を配置してほしい」、「活動内容をもっとPRしてほしい」といった意見が挙げられていました。このような意見につきましては、全体の整理がつかましたら、すべてそのままお示ししたいと考えております。

続きまして8ページですが、ここから「小学生のふだんの生活状況」ということで、日々の食事、塾・習い事といったような状況をたずねた結果でございます。食事につきまして、左の円グラフの「朝食」につきましては、「ほぼ毎日食べる」が95.5%ということで、たいがいの子どもは毎日食べているという状況ですが、「ほとんど食べない」も0.7%、「週に1～2回食べる」が1.1%と、数は少ないですが、朝食を欠食している子どもがいるということが見受けられます。それから、夕食ですが、これも家族と取っているかどうかで

すが、「いつも家族でとる」が 86.8%、「ときどき子どもだけでとる」が 10.6%、「いつも子どもだけでとる」が 2.1%という形になっております。

下の「塾・習い事」につきまして、「通っている」という子どもの割合は小学生の 74.1%にのぼっております。通っている日数につきましては、「週 1 日」が 30.3%、「週 2 日」が 31.4%と、だいたいそれで 6 割くらいなのですが、「週 4 日以上」という数も「週 5 日以上」と合わせまして 14.3%にのぼっております。

続きまして 9 ページでございますが、小学生のテレビやビデオを見たり、テレビゲームをする時間ということが決められているか、決められていないかということですが、「決められている」とする割合は 38.9%、「決めていない」という数が 6 割近くにのぼっております。

続きまして (2) から「子育てにおける周囲の関わり」の状況ということで、まずは家庭内の配偶者の子育てへの関わり方をたずねた結果が 9 ページ下にあります。「非常に協力的である」という回答は、就学前のほうが多くて 37.6%、小学生が 32.3%で、「比較的協力的である」も合わせますと、就学前が 9 割弱、小学生が約 8 割ということで、配偶者はある程度協力的であるという状況が見られておりますが、「あまり協力的でない」という回答も 1 割から小学生になると 15%程度見られております。

10 ページにまいりまして、家庭以外の「親族や友人・知人の子育ての関わり方」ということで見ましたところ、「同居の家族に頼める」、「近くに気軽に頼める人がいる」という割合が、併せまして就学前で 4 割弱、小学生 45、46%ということで、「気軽ではないが、いざという時には頼める人が近くにいる」という「近くにはいないが、頼める人がいる」という割合も合わせますと、就学前、小学生ともに 8 割を超えるという状況です。ただ、「特に頼める人がいない」という割合が、就学前で 15%、小学生で 12.6%にのぼっているということが見られております。

「子育ての仲間の有無」ということでは、就学前と小学生でかなり差がありまして、小学生になると、約半数の人が仲間があると回答しておりますが、就学前では 3 割弱という結果になっております。

11 ページにまいりまして、「子育てサークルへの参加状況」、これは就学前児童だけにたずねておりますが、「参加している」とする割合は 2 割弱になっております。

次に 11 ページの下から「子育ての意識」ということで、常日頃感じていることをいくつかの項目でたずねた結果をお示ししております。まず、「子育ての楽しさ」という意味では、9 割がたの人が「とても楽しい」ですとか「つらいこともあるが楽しいことの方が多い」と答えておりますが、「つらいことの方が多い」という回答も 1 割に満たないものではありませんが、ございます。

それから次のページの 12 ページにまいりまして、「子どもの成長」です。こちらは「楽しみ」という回答が、就学前が 9 割、小学生が 8 割を超える程度であります。が、「楽しみではない」という回答はほとんどないという結果になっております。

次いで「子育てに自信が持てなくなること」の結果につきましては、「特にない」という回答が就学前、小学生ともに 4 分の 1 程度ありますが、「時々ある」「よくある」という回答が、合わせまして、就学前でだいたい 17%、小学生でも 18.6%という結果になっております。

13 ページの「子育てが嫌になること」、こちらにつきましても、嫌になることが「ときどきある」、「よくある」という回答が、就学前、小学生、共に合わせて約1割ございます。

「かっとして子どもをたたいてしまうこと」はまったく「ない」という方は、就学前、小学生とも、3割を超える程度ありますが、「たまにある」が5割を超える程度、「ときどきある」、「よくある」と、比較的あるという回答が就学前で約1割、小学生で12.5%という結果になっております。

14 ページにまいりまして、「ゆったりとした気分で子どもと過ごせる時間」は「ほとんどない」という回答が12.4%、「ない」が0.5%という形で、13%程度の人があまりないという結果になっております。

「子どもとの会話」、これは小学生を対象にした調査ですが、これにつきましては、「よく話す」という回答が6割を超える程度であります、「ときどき話す」、「ほとんど話さない」という人も、若干ですが、2%程度ございます。

15 ページ「しつけのために厳しくしかること」、これも小学生を対象にした調査結果でございます。「特にない」という回答が2.9%、「たまにある」という回答が55.4%などとなっております。

も小学生を対象にした調査で、「子どもの考えていることや家庭以外での行動の把握」をしているかどうかということについて、「あまり把握していない」という回答が5%ございました。

16 ページから、「子育てについて日常悩んでいること」は何か、どういったことを複数回答で、いくつでもをつけてよいという形で回答していただいております。この結果につきまして、まず就学前児童調査では、具体的に、食事や栄養に関することですか、病気や発達に関すること、といった、かなり具体的な子育ての仕方に関する悩みなどが挙げられております。合わせて、「子どものほめ方/叱り方がよくわからない」といったような意見、それから子どもの教育に関することといったような悩みも挙げられております。下のほうになります、「仕事や自分のやりたいことが十分できないこと」といったような、子育てと自己実現といったようなことの両立が難しいといった意見も出ております。小学生にまいりますと、1番多いのが「子どもの教育・塾、進路に関すること」、それから「友だちづきあいなど対人関係に関すること」といったような、進路ですとか子どもの友達関係に関わることなどが挙がってきております。若干、いじめに関することですか、不登校などの問題についてということもありまして、「いじめに関すること」では15.7%の保護者が気になる、悩んでいるというような回答も出てきております。

続きまして17ページから「子育て支援サービスの利用状況と利用意向」ということで、まず保育サービスの利用状況をお示ししております。ここは、就学前児童の保育サービスの利用状況ですが、グラフを見ていただきますと、色の濃いほうが、「保育サービスなどを利用したり、親族・知人に預けたりする」と、何らかの形で家庭以外で保育などをしていただいているという家庭でございます。こちらにつきまして、3歳以上になると9割近く、もしくはそれ以上が「預けている」ということです。0、1、2歳では、だんだんと数が増えてきていて、0歳で3割弱、1、2歳で4割弱という結果になっております。

その細目が18ページに挙げておりますが、左の上のグラフを見ていただきますと、一番黒いものが「保育園利用」で、「幼稚園利用」が見えにくいですが斜めの斜線のもので、

「認証保育施設利用」がドットになりますが、0、1、2歳では年々保育園利用が増えてきておりまして、認証保育施設利用も同様に増えてきているということです。3歳以上になりますと、幼稚園利用の方が多くなりまして5割を超えるという結果になっております。ほか、認可外保育施設などの結果もこちらにお示ししております。親族や知人に預けているかどうかということについては、下の右のグラフでございますが、0、1歳などで預けているという回答が多くなっています。

続きまして19ページにまいりますが、小学生の「放課後児童クラブの利用状況」でございます。黒い網掛けが「利用している」という形になりますが、小学1年生、2年生につきましては、3割を超える程度利用しておりますが、3年生になりますと2割を切る結果になっております。

続きまして20ページ以降、個別的な病児・病後児保育の利用希望について把握した結果でございます。まず、「病児・病後児保育の利用希望形態」ですが、一番多いのが、「保育園などの専用スペースで子どもを預かってくれるサービス」で、それと同じ程度に、「医療機関の専用スペースで子どもを預かってくれるサービス」ということで、どちらかというと、やはり保育園や医療機関等の専用スペースで預かってもらうサービスの方が、ニーズが高いという結果が見られております。

「病児・病後児保育の利用意向」ということで、その下に、「いつも利用したい」か「ときどき利用したい」ということでたずねていますが、「いつも」という回答は就学前で13.0%、小学生で20.7%という形で、「ときどき利用したい」という回答の方が非常に大きな割合となっております。

続きまして21ページでございますが、これは保護者の用事などで一次的に保育が難しくなった場合に預かってもらう一時保育のニーズについてですが、こちらの利用意向・希望としましては、一番多いのが「保育園・幼稚園で子どもを預かってくれるサービス」で、75.8%となっております。その半数程度にはなりませんが、「遊びに行っている公共施設などで子どもを預かってくれるサービス」といったような回答も見られております。こちらの利用意向がいつもかときどきかという結果につきまして、就学前児童調査では「いつも利用したい」という回答が3割弱と多くなっております。緊急の用事の方が、やはり利用意向が高いという結果でございます。

続きまして22ページですが、泊りがけで子どもの保育が必要になった場合の預かり意向でございます。ショートステイの利用意向ということで把握しましたところ、「いつも利用したい」という回答は非常に少なく、「ときどき利用したい」という回答が4分の1程度あるという結果になりました。

その下のグラフの「トワイライトステイ事業」、保育園ですとか学童クラブの終了後に夜10時程度まで預かるサービス、こちらの必要性につきまして「ぜひ利用したい」という回答は、左から2番目の斜線でございますが、就学前で10.4%、小学生で6.9%と、それなりにニーズはあるという結果になっております。

23ページの「産後ホームヘルパーの利用意向」につきましては、「ぜひ利用したい」が11.3%、「金額などの条件があれば利用したい」という64.0%ということで、こちらも1割程度の人にニーズがあるという回答が出ました。

続きまして、(2)から「保育施設や幼稚園に関する意識」ということで、要望などを

挙げております。まず 23 ページの就学前児童を対象にしまして、保育施設や幼稚園に関する施設への要望として挙げられたものでございますが、一番多いものはやはり「保育料・授業料の値下げ」となりました。続いて「預かり時間の延長」ですとか「施設設備の充実」、それから「保護者への十分な情報伝達・意見要望への対応」などが挙がっております。

24 ページの「放課後児童クラブに関する要望」としましては、「対象学年の拡大」、それから「長期休業日の昼食の提供」、それから「職員体制の充実」、「開設時間の延長」といった項目が要望として挙げられました。

25 ページは「保育園や幼稚園のあり方に関する考え方」ということで、いくつかの項目で挙げておりますが、詳しくは後で見ていただければと思いますが、やはり「保育園と幼稚園は、役割と機能が異なるのでそれぞれ必要である」というような回答のほうが、意見としては多いという傾向が見られております。

26 ページにまいりまして、以下、「集いの場や遊び場の利用状況と利用意向」ということで把握しました。26 ページのグラフは、府中市の中の地域のひろば的な事業を行っている場所の認知状況、利用状況について把握したものです。「文化センター」は利用状況が5割弱と高いのですが、しらとりの「オープンルーム」につきましては「知らなかった」という回答が 68.7%、それから「私立幼稚園の子育てひろば」についても5割弱の方が「知らなかった」という回答になっております。

27 ページにまいりまして、これは「親子で集える場に期待する役割」ということで挙げておりますが、「子どもの遊び場」、それから「親子で楽しめるイベントやプログラムの提供」、「親同士の交流」、「子どもと一緒に遊んでくれるスタッフがいる場」、こういった機能が求められているという結果になっております。

下の方は、小学生の子どもが集う場としてどういうことが求められるかということですが、一番多いのが「自然体験ができる場」、2番目に「スポーツをして身体をきたえ、発散できる場」、3番目に「子ども同士で自主活動などができる場」といったような形で、いろんな項目に が付いてきております。

28 ページにまいりまして、「子どもの遊び場について感じること」という結果につきましては、「雨の日に遊ぶ場所がない」という回答が3人に2人ありました。その他としては、「遊具などの種類が充実していない」、「不衛生である」であるとか、「遊び場に行っても子どもと同じ歳くらいの遊び仲間がない」というような回答が見られております。

29 ページから「その他の子育て支援サービスの利用状況と利用意向」ということで、まず、ファミリーサポートセンターの利用状況ですが、こちらは「利用したことがある」という回答が就学前で 3.7%、小学生 1.5%で、「知っているが利用したことはない」という回答も就学前で 45.9%にのぼっておりますし、「知らなかった」という回答も非常に多くなっております。

30 ページで、どういう場合に利用したいと考えるかということについては、保護者の病気などの際の預かりが一番多くて、次いで一時的に外出する場合の預かりという順番になっております。どちらかという、毎回毎回というよりも、何かの用事や病気など、突発的な用事の時のニーズのほうが高いという結果になっております。

31 ページにまいりまして、こちらは「相談窓口の認知度/利用状況」でございますが、就学前児童につきましては、一番多く利用されているのが市民医療センターの中の「子育て

で相談室」で、二番目が保育所・保育園の「育児相談」という結果になっております。小学生につきましては、教育センター内の「教育相談」、それから「児童相談所」といったものが、比較的利用されております。「知らなかった」という回答も、事業によっては非常に多く見られております。

32 ページにまいりまして、情報の入手方法に関する現状の情報の入手先ですが、一番多いのが、やはり就学前も小学生も「広報ふちゅう」ということになっております。次いで、小学生では小学校経由、もしくは市のホームページ、就学前児童は、保育園・幼稚園、もしくは市のホームページで、就学前では「健診などで配られるパンフレット」という回答も多くなっています。

最後に、33 ページから、市の子育て支援政策一般について、自由にご意見を書いていただいた結果の中から、いくつか抜粋してお示ししております。これについても、最終の報告書では、すべて掲載したいと予定しております。以上です。

会長

45 分ほどずっと説明を聞きっぱなしで、さぞお腹が膨れて言いたいこともおありだと思いますけれども、みなさんいろいろとお関心をお持ちなので、とりあえずあえて限定はしませんけれども、この調査報告を今お聞きになって、ご自分の体験と合わせて、これはそうだと、自分の体験と数字と一致するという意味で納得したとか、あらためて理解したというような部分とか、あるいは理解できないとか、こういうクロス集計があったほうがいいとか、もっとこういう調査もあったほうがいいのではないか、という諸々の納得した部分、納得出来ない部分、あるいはこうしてほしいということも含めて、ご自由に発言をしていただきたいと思います。また、就学前と就学後と、大きく調査の項目が2つに分かれております。できればどのお話をされているのかを意識して発言していただければと思います。いかがでしょうか。

委員

いろいろと確認したいことがあります。アンケートというよりも、率直に思ったことを挙げさせていただきますが、文化センターごとに児童委員会を設置しているという経験をしたことがあるのですが、どの文化センターでもそういう委員会を置いているのか、その現状を説明をしていただけたらありがたいなと。また、こういう児童委員会の子どもの積極的な意見が、この行動計画の中にも反映されたら、より一層いいものができるのではないか、というふうに思っていて、現状から聞かせていただければと思います。

会長

では質問の続きがありましたら後からということで、とりあえず文化センターの体制をご説明いただければと思います。

子育て支援課長

文化センターの児童委員会ということですが、申し訳ありませんが、私どもも把握しておりませんので、次回というよりも、この会議が終わった後、資料という形でご送

付させていただきます。その子どもの意見を反映させたらよいと思うということについては、扱う担当課ともご相談させていただければと思います。

会長

あるいは、この委員の中で、どういうことになっているかというのをご存知の方はいらっしゃいませんか。では、引き続き何かご質問がありましたらどうぞ。

委員

ではまた就学児で。青少年対策地区委員会というのが地域を巻き込んで、学校と地域、自治会等で、例えば住吉の「ちびっこ相撲大会」とか、かなりPTAの役員を終えた方達も協力して、住吉小学校の土俵を利用して、女の子も男の子も相撲をできる機会があるということで、地域でがんばっていらっしゃる活動も見受けられます。青少対の活動について、かなり地域とのつながりで、今後も発展ならびに継続していかれたらと思っているのですが、そちらのほうも、活動に関わっていらっしゃる方、対象となっている子どもたちが、そういうことに参加してどうなのか、というようなこともクローズアップされたいかなと思うのですけれども。

会長

とりあえずよろしいですか。今の2つのご発言は、このメンバーだけでなしに、当事者である子どもたちの意見も反映したらどうかという、そういう提言で、逆に言えば、そういうものを我々自身がどう聞き取るかということもあります。我々自身が直接聞くということもあり得ると思いますので。全体ではなくても、部分的にでもですね。今後の進め方とも合わせて、また後でご相談させていただきます。

委員

それともう1点、同じようなことでよろしいでしょうか。校外委員会というものもあります。これは各学校で、いろいろ説明していると長々となってしまいますが、集団登校をしている子どもたちの親、6年生が下の子を連れて行くのですが、ですから高学年の親が主体となって、校外活動というのを夏休みなどに、自治体から補助金をもらって活動していたりとか、運営方法はいろいろなのですが、地域のお祭りに参加したりと、校外委員さんが積極的に活動されたりしています。あるいは、地域の交通安全のために、信号機の取り付けから横断歩道の取り付け、一方通行の進入禁止マークですとか、地域を見て、子どもたちが安全に過ごすために、ということで、いろいろと市政に対しての要望を提案したり、市長と語る会議を1年に1回持ったりといったこともされています。これがどんどんと進んでやっている状況です。かなりこれが低年齢のお子さんを巻き込んだ地域の校外運動というのもあったりして、縦の、異年齢の活動も促進していると。地域の交流に大いに役立っていると私は思っております。そんな中で、こちらの情報提供というか、大変やはりこれも活動を継続的にしていくというのも、親としては大変なことだと思いますが、素晴らしい活動だと思っております。そういうことが継続しやすいような委員会活動というものを促進できるようにしていく、また学校との連携ということも大事だと思います。就学

児については、そういうことも重要だと思いますし、この辺の現状も把握できたらと思っています。

会長

ありがとうございます。とりあえず他の方からもぜひ、みなさん1回は発言していただきたいと思いますので。もちろん、1回に限らずですが。

委員

よろしいですか。この調査報告に関する意見をということではないのですか。進行がどこに行っているのかがちょっと見えなかったのですけれども。

会長

先ほど冒頭に申し上げましたように、この調査報告で、例えばご自分が納得したこと、それと、これはちょっと分からないという疑問とか、それと今回は基本的概要だけです。もっとこの部分はどうかという、分析するためのクロス集計とか、注文をつける部分についてご発言いただきたいと思います。

委員

では、あくまでもこの調査と報告書に基づく議論ですよ。

委員

よろしいですか。見させていただいて、大雑把な話ですが、就学前の親でだいたい10%の親が悩んでいる、就学後は15%くらいの方がお悩みになっているのかなというふうに読ませていただきました。少し大げさかもしれませんが、同じ人の傾向になっているのかなというところは、知りたいと思いました。例えば、12ページで「子どもの成長」を「どちらかという楽しみでない」とか「楽しみでない」というパーセンテージを見ると、たいてい10%で、小学生のほうがだいたい15%です。他のところでも、だいたいそのような傾向に見えるのですが、そこで思ったのは、同じ人なのではないかということです。ですから、その点を分析していただければありがたいと思います。

会長

今たぶんご指摘なのは、12、13ページで、楽しみではないというほうですよ。いろいろと問題を抱えているというのが、例えば子どもの成長、子どもの子育てに自信がない、子育てが嫌になる、そしてかっとして子どもをたたくという、マイナス要因の属性をもっている家族や親がどういう人たちであるかという分析をして、重なるのが重ならないのか、というあたりを見てみたいということですよ。逆に問題世帯がどういうところにあるのか、どういう世帯が問題を抱えやすいのか、ということですね。これはいかがでしょうか。

富士総研

検討してみます。がんばってみます。

副会長

よろしいですか。思ったより、非常に常識的な回答が多いので、すごく「へえ」と思いました。専業主婦の方が多いというのもびっくりして、専業主婦をやはりある意味でケアしてあげないといけないな、というのが1点です。それから、文化センターをこれだけ利用しているのに、意外と改善要因も多いということについても、どうにかしたほうがいいなと思いました。あと、これは質問なのですが、このアンケートに答えた人たちの地域への関わり方というのを見る項目はありますか。

富士総研

回答者ということでしょうか。

副会長

はい、回答者の地域への関わり方というところで。

富士総研

今回は取っていません。

副会長

といいますのは、よく地域の方々にご協力を願ってとか、地域にこういう施設がほしいと言うのですけれども、その人も地域の人なのですよ。実際はね。自分は地域の人ではなくて、その人も地域に住んでいるのに、地域の人たちは何もしてくれないとか、もっとこういうものがあつたほうがよいとか言いますが、実際はその人も地域の人なのだという意識を持たないと、いつまでたっても駄目ではないかという気持ちがあるので、今、お聞きしたわけです。調べる項目がないというのは分かりました。

もうひとつは、これも感想なのですが、塾とか習い事に7割くらいが行っているのですね。子どもみたいな言い方をすると、すごく行っている、と思います。そうすると、やはりこれは、子育て支援の一部分に何らかの形で絡んでもらわないと。なんだか、これはブラックボックスみたいですよ。手の届かないというか、いろんな意図があると思うのですが、これを無視するわけにはいかないのかなという感想です。以上です。

会長

今の、地域との関わりというところで、どういうふうに見たらよいのかよく分かりませんが、例えば32ページの子育て支援サービスに関する情報で、これをサービスということに関しては、かなり行政的なサービスになると思うのですが、広報ふちゅうというのは折込みですか。府中市の場合は、新聞折込みで回覧板ではないのですね。おそらく、田舎というか、昔であれば、自治会組織を通じて回覧板という形で隣近所に回すというのがありましたが、今はほとんどたぶんないのですよね。新聞折込みという形になって。逆にいえば、自治会というのが、あまり昔のような機能をしていないというところがあるし、あるいは流入して来られた方は、自治会組織に入ってらっしゃらない。そういう意味で地

域ネットワークに入らないう可能性が有りますね。

それから 10 ページの「子育て仲間の有無」というところを見ると、割とない人が多いですよね。10 ページの下の 2 - 3 のところですけども。小学校に上がるころになると、少し増えるけれども、特に低年齢児を抱えている時には少ない。これはどういうことかよく分かりませんが、例えば外から流入してくる新住民の方ということも考えられるし、あるいは子どもが小さいのでなかなか外に出歩けない・行動範囲が狭いということもあります。そのところも一つの問題なのかな、という気がしました。すみません、ちょっと余計なことでした。

副会長

今の、子育て仲間の有無というのは、私が幼稚園をやっているのによく分かるのですが、資料 2 にあるように、これには府中市の出生率は出ていませんが、府中市の出生率は全国平均でも低いほうなんです。ですから、増えるはずはないのです。本来ならば、だけれども、0 ~ 5 歳くらいの 14 歳くらいまでの子どもたちが、徐々に微増傾向にあるというのは、やはりそのくらいの小さいお子さんを抱えた人たちが流入してきているということだと思ふのです。次に 10 ページの子育て仲間の有無というのは、やはり幼稚園や保育園に入る前までは、すごく不安を抱いている方々が、そこに入って仲間を得て、小学校に行くと増えていくというパターンが、私なんかの園では見えますから、これはすごく分かるな、という気がします。

もう一つ、先生がおっしゃった自治会は、府中では割と盛んだと思いますよ。うちのほうも、白糸台東部自治会というのがあるのですが、約 900 所帯の方が加盟していて、加盟率は 9 割くらいになるのではないのでしょうか。その中で、指導委員会というのが、先ほどの話にもありましたが、これは自治会でやっていて文化センターではないのですが、そういうものもありますから、割合と活発な地域、地域的には活発だと言えます。割と北のほうは不活発というのでしょうか。府中の武蔵台とか、北山とか、あちらのほうは、あまり活発でない地域で、それ以外は、割合と自治会組織は活発なところが多いような認識なのですが、この辺は市役所の方ではどうなのでしょう。

子育て支援課長

今のことでは、まず加盟率というのがどのくらいかという数字がないのですが、確かに今おっしゃったように、東部地域ですか、私もどちらかという東部に近いので、そういう部分はよく分かります。ただ、そうじゃないというところのお話もよく伺っていますので、これは数字を見てからでないとお答えしづらいかと。少し宿題にさせていただきます。

委員

私は、22 ページのトワイライトステイ事業というのにすごく関心がありまして、私の子育てをしていた頃はこういうことは何もなかったし、子育てというのがすごく保守的で、子どものそばを離れられないとか、そういう感覚が、今思い出しても、あの時代は、思考が、こう家の中にあつたなというのがあるのです。それで、このトワイライトステイ事業というのは、これをもっとうまく利用する人がいればと。意外と「必要はない」とか、「利

用したくない」というのが数字的には出ているのですが、「ぜひ利用したい」という人の背景がどういったものかとか、「利用したくない」というのは、どうして利用したくないのか、とか、必要がないということで全部考えるのか。こういう人に子どもを預けて、その時間を主婦が、母親が、子育て以外のことをできる可能性のようなものが、ここに提示されているというところに、母親がまだ乗っていかないというような、いろんな意識がここにあるのかなと思ひまして。もうすこし、質問の仕方を掘り下げて、定性的なものが出てくるといいかなと思ひました。希望ですが。

委員

私のほうでさせてもらっているので、現状の説明をさせていただければと思います。今、トワイライトステイ、私ども、子ども家庭支援センター「しらとり」の付属の事業でさせていただいております。今現在、延べの人数で5700人くらいの利用者になるかと思っております。2月末現在で3222名の方が利用されています。

会長

それは、人/日ということですか。

委員

延べ人数ですので、1人の方が10回利用されれば、10という数字で数えさせていただいております。登録人数につきましては、正確には今ここに持っておりませんが、約120人の登録家族というか世帯があると思ひます。今日の昼、12時までに、登録していただいている家族の方からお電話をいただくと、その日の夕方、各保育園・学童にこちらが車で迎えにいきます。今、今日あたりでだいたい25名くらいのお子さんを各保育園・学童にお迎えに上がっております。6時までに「しらとり」のほうに戻ってまいりまして、7時に夕飯を食べて、10時までの間にお母さまなりお父さまなりのお迎えを待つ、という形で運営させていただいております。日曜と祭日については、お休みという形を取っておりますが、その日のお昼までですので、今日残業がありそうだとか、今日、急に何かがあって帰れなくなるという方もご利用もできるということで、キャンセルについてもお昼までであれば可能ということでさせていただいております。

それで、これから先のお話は、私の主観も入ってしまうので申し訳ないのですが、やはり、ご両親ともにいろんな職場の中で、どうしても時間的に不規則な仕事をされている方、またはひとり親の方等がいらっしゃると思いますので、それと今、勤務時間的にも最初から朝の10時出勤で夜の7時、8時という勤務の方もいらっしゃると思いますので、どうしてもそれをこなすとなれば、今の保育園の時間帯、学童の時間帯では難しいという方がいらっしゃると思います。その部分で、夜10時までということで、うちのほうでは、今させていただいているということです。

会長

この設問の回答の「その必要はない」というのはたぶんニーズがないということがはっきりするのですが、「ぜひ利用したい」、「利用したくない」、「どちらともいえない」という

のが、ニーズ・必要は感じているけれども、トワイライトは使いたい・使わないというところで分かれているということでしょうかね。これは全数調査で、1765 という数字が出ていますから、「ぜひ利用したい」というその背景や世帯の属性みたいなもの・・・逆にいえば、今後まだニーズは明確にあるということですよ。

委員

きっと、徐々に増えていくのではないかと考えております。

富士総研

はい、クロス集計させていただきます。

委員

今現実として10時にお迎えに行くというのが、東のほうで難しいと、親がですね。それでやはり、私どもも受けている方がいらっしゃって、という現状があるかと思えます。

委員

中には迎に行くのが大変だとおっしゃる方もいるのですが、うちの方の事業としては、最終的にお迎えには来ていただきたいということで、今はやっております。中には、連れてきてくれないかなとおっしゃる方もいるのは事実なのですが、それは今のところはやっています。

会長

トワイライトを利用されるお子さんの年齢というのは、いくつくらいですか。

委員

今現在は、2歳から小学校5年生、まあ小学校6年生まで一応登録はできるわけですが、実際にお使いになるのは、やはり学童に通われている年代層までということが多いので、小学校の3、4年生です。

会長

下は？

委員

下は2歳以上です。トワイライトという事業は、私どもでさせていただいていますが、保育所と違いまして、毎日ご利用になるわけではありませんし、また、その日の状態が、保育園からこちらにお預かりするときに、どんな状態かというのがよく分からないのですね。なかには車の中で、お迎えに行った時に、体調的に今日はなんとなくぐったりしているかなという判断ができるお子さんであればいいのですが、ほんの1ヶ月に何度かしか利用されない場合は、そのお子さんの今日の状態が普通なのか、それとも体調的にもう悪くなっていて、ただ熱が出ないだけの状態なのか、わからない部分がありまして、一応、今

のところは2歳からということでお話をさせていただいております。

会長

まだ発言なさっていない方は。

委員

私どもが今の場合もお預かりしている場合に、兄弟が家にいたりするものですから、一緒にみて欲しいと。ひとりのお子さんですと、やはり利用頻度が高いのではないかと思います。兄弟がいる場合は、兄弟がいるの中で私達が一番下のお子さんを対象にしてみると、そういうことが現状としてあると思いますが、1日1000円ということで、かなり安いということで、利用者にとってはありがたい話かと思います。

委員

NPO法人のパーソナルケアサービスみもざというところで、いろいろなサービスをしている中で、保育を3割ほどやっている団体ですけれども、これを読ませていただいて、現場と全然違うなというのが第一の印象でした。このアンケートの結果は、いろんなお手伝いしてもらえ友人もいるとか、環境もあるとかということで、まあまあ幸せにやっているなというふうに取り取れてしまうような数字でしたけれども、現場の私たちは、やはり専業主婦の方がこんなに多くいるのかと驚くのですが、私たちを利用される方はもちろん働いてらっしゃる方がお使いになるわけなので当然なのですが、かなり厳しい環境の中で、共稼ぎをしながら子育てをしているというのが大変よく分かるのですね。そういうお母さんたちは、保育に入っても、保育そのものよりも、お母さん方のケアが大事というふうな場面なんか結構多いのですけれども。いろんな問題がいっぱい現場にはある、でもそういうものが、あまりここには浮き出てきていないから、どういう調査の仕方かなということを読みながら読みました。

先ほど先生もおっしゃっていたような、問題を抱えている家庭が、数少ないかもしれないし、そこら辺が本当は大変な問題だから、その辺の分析をしっかりと、そういうものに対応できるような体制を作っていかなければいけないのではないかなと感じながら読みました。個々に申し上げるとあれですけれども、印象としてそういったことを受けましたので、具体的な問題とかは、分科会になったときには、そうした現場からの声を発していきたいとは思っています。なかなか、こういうアンケートというのは難しいのだなという、とてもこれだと幸せそうな、幸せそうでもないですけど、割に安定した環境もある、受け皿もあるみたいなことなのだけれども、実情はもっと悩んでいるのではないかということもあります。

会長

私がまた発言をして申し訳ないのですが、17ページの保育サービスの利用状況の表がありますよね。逆にいうと、3歳以上であれば9割以上が、他人の保育を利用して子育てをしているということで、いろんな人とのつながりが、親も子どももあるわけですけれども、逆にいうと、0、1、2歳のほうは使っていない方が圧倒的に多いわけですね。逆に、

一つは、もちろん共稼ぎとかの就労状況で家族の中で子育てができない、なかなか手が回らないということがあるけれども、一応、保育者がいても、非常に孤独な子育てをしていらっしゃる可能性が、実はここにすごくあるわけですよ。

ただ確かに、3歳以上であればいろいろな保育活動をしていらっしゃる割に、先ほどの、子育てに関する不満というのをかなりの方が逆に抱えていらっしゃる。それがいくつか重なったり、あるいは仕事上のトラブルであるとか、夫婦の関係がちょっとおかしくなった時に、それが噴出するという可能性があるわけですよ。そうだとすると、一見何もないようでありながら、潜在的な部分ではかなり、今は子育てに関しては不満とかが蔓延しているのではないかと。6割、7割の方が、いろんな形でかっとなったりするといった感情をもっていらっしゃるというのは、大変なことのような気がしますよね。

委員

先ほど広報ふちゅうの入手方法のお話がありましたが、新聞をとっていないと来ないですよ。市役所にあたり、文化センターにはあるのですが、新聞を取っていない人は分からないのです、市の施策が。今お話を聞いて、そういう人たちは本当は情報が必要なわけでも、見る機会がないのかなという気がしました。

委員

一方では、ホームページがかなり活用されていますね。そういう面では、若い方たちは、そちらの利用が高いのかもしれないですね。あと、コンビニに置かれるようになって、ずいぶん改善されているとは思いますが。

委員

10ページの子育て仲間の有無のところ、就学前と小学生という二つの分け方しかしてありませんが、これはまた、0、1、2、3といった細かい年齢別にいずれ出されるのでしょうか。

富士総研

はい、お出しします。

委員

先ほど他の方からお話があったように、就学前のグループの中にも、保育園は別ですが、0、1、2歳という幼稚園に上がらないようなお子さんを抱えた家庭になると、またこの数字の割合が変わってくるように思うのです。17ページでは、歴然と3、4、5歳になると、何かしら公的なサービスと関わりがある家庭がほとんどですので、それ以前の方が実際預けられる場所があるのか、お友達仲間がいるのかどうか、その辺をいずれ詳しく知りたいですね。

委員

ファミリーサポートに関わっておりますので、29ページのファミリーサポートセンター

を利用状況というのを見まして、やはり利用したことがあるという数字が低いなという印象ですし、登録はしているが、利用したことはない、あるいは知らなかったという数字も大変高いので、これに関してはサブリーダー会でもずっと検討し続けておりますし、子育て支援の柱の一本にもなっている事業ですが、これをうまく活用・運営していくのはなかなか難しいことだな、というのをこの数字からやはり感じましたし、現在も話し合いは続けてしております。

それと、先ほどから何回も続けて出ております、2ページの母親の専業主婦の方が、小学生で45.7%という数字に非常にびっくりしました。というのは、学校でPTAの役員を決める時に、役員を決める席にもほとんど出席しないのですね。それで、ほぼみんな、理由が働いているとなっていて、結局、私なんかそこにいるので役員になってしまうのですが、これが「うそ、45.7%も専業主婦の人がいるのに、なぜ学校にはみんな来ないのかな」というふうに、この数字を見て驚きました。そういうところを見ると、自分の子どもの学校すら、わりと人任せ的な気持ちの人がやはり多いのか、そうなると、地域でも専業主婦が何らかの形で、自分の子どもだけではなくて、子育て支援を支えていこうという意識を高めるというのも、これだけの数字がありながら、なかなかそれが見られない現状なのだなというように思い、そこをうまく活用といいますか、意識改革も必要なのではないかと思いました。以上です。

会長

共働きという定義を、特に書いて質問していませんよね。共働きというイメージ、例えばパートで、本当に人員補助的に年収100万もいかないようなパートをやっている方は、共働きという意識で回答されるのでしょうか。

副会長

そういうイメージではないでしょうね。

委員

この共働きというところの定義が、私も理解しがたかったのですが。

会長

まあ、パートを含めてであろうと理解しているだけで、ただ、パートの、いわゆる非常勤的と、常勤的なものと、週に何回とか短時間のパートもありますよね。そちらがもしかしたら、共働きという意識をもっていらっしゃるかもしれないですね。

富士総研

今、共働きかどうかというところですが、共働きですか、そうでないですか、というような質問は設けておりませんので、父親と母親の就労状況ということで回答していただいた結果を組み合わせるかたちで、こちらで判定をしております。ですので、共働きの中には、パートやアルバイトですとか、在宅勤務・内勤という形もすべてで、父親も母親も働いているという、最低限の条件をクリアすれば、共働きという判定にしていますので、数

がちょっと多くなっている可能性はあります。先生がおっしゃったような非常に軽い共働きというものも入っているということです。

会長

逆にいえば、軽い共働きが入っているにも関わらず、働いていない人が5割、7割いらっしやると。でも、地域に出ると、私は仕事だから来られないということもあって、ちょっとそのあたりは矛盾している気がしますね。

富士総研

あと一つ考えられるのは、なかなかこのアンケートは回答する時間がそれなりに必要なもので、就労されている方だと、回答率が低くなったという可能性があります。専業主婦の方のほうが、より多く回答した、返してくださったという可能性があるのですが、それは市の統計資料の方とつき合わせてみて、もし誤差があるようであれば、この調査結果そのものが、専業主婦層からの回答が多かったという前提で理解していただいたほうがよろしいかなと思います。

委員

16ページの「子育てについて日常悩んでいること」では、とても具体的に、例えば食事や栄養に関することが37.5%とか、はっきり出ているので、子育て支援の意向調査の総まとめのような気がするのです。やはり、悩んでいることをピックアップというか、引き出して、それを細かく広げていけば、これからの課題にとってもこれは生きてくるような気がするのです。生の声が私は一番響きました。すみません。そんなことです。

会長

確かに、この16ページで解説していただいたところもありますけれど、就学前の児童も0、1、2歳と3歳以上で、もしかしたらまた変わるのかと思いますが、また違いがあるかもしれませんが、具体的な子育て技術というか、子育て方法の悩みが割に多いですね。それに対して、就学児以上はむしろ、教育、これは中学受験とかが高学年になるとあるのでしょうか、あとは子どもとのつきあい、小学校の中でのいじめとか、そちらの方向に視点に移るのだけれども、就学前の場合はやはり、本当に母親として、あるいは親としての育児技術、ほめ方/叱り方が分からないということも含めて、その辺りも相当、悩んでいる方が多いですね。

これはまたちょっと余談ですけども、別の統計を見たら、昭和30年代、40年代くらいは、日本の世帯の中で、18歳未満の子どもがいる世帯が6割、7割いたのですよね。今、国勢調査で子どもを育てている、つまり18歳未満の子どもがいる世帯が、なんと3割を切っているのですよね。全国で20何パーセントしかいないのですよね。それは高齢者自体が増えているということもありますけれども。ということは、小さな子どもを育てている家庭が自分の周りにもあまりいないということなのですよね。放っておくと、どこかに出かけていかないと、そういう子どもあるいは親に会わない。だから、なかなか昔であれば隣近所でこうしなさいとか、泣いたときはこうするんだよ、というのが比較的情報を得やすか

ったけれども、今は得られないから、育児書とかを見てやってみて合わないとか。非常に環境的に孤立しやすい環境にあるということもあると思うのですよね。ですから、そういう人たちにどうやって情報を伝えて、仲間づくりをしていくのか、というのはかなり意識しないと、ほっておいたのでは本当にできないのではないかなと思います。そこで、弓削田さんと庭山さんにそれぞれお聞きしたいのですが、いわゆる片親世帯、先ほどのことでは共働きではない片親世帯の問題点というのは、あまりここには出てきていないように思うのですが。

委員

そう思います。私もこのアンケートをみて、意外と専業主婦が多いなと感じました。ですから、週何時間くらい働いているんですか、という質問がないとなると、専業主婦にいちちゃっているのではないかなと。たいして働いていないから、私は専業主婦という感じで。私も狭いエリアしか分かりませんが、私のところでは先ほどの方もおっしゃったように、ほとんど昼間いらっしゃらないお母さんが多いです。保育園の送り迎えの時期は、数人の方は送迎バスのところまで出て来てお迎えしてらっしゃる方もいますけれども、いろいろなことで訪問してもほとんど昼間いらっしゃらない家庭が多いのも現実です。ですから、このデータは、割合模範的に答えが出ているなと思いました。府中市全域でやっているから、地域性もあるのかもしれませんが。

会長

片親世帯というのは、小学校前ですと、このアンケートでは 1.4%、サンプル数で言うと 24 世帯、小学校の場合は 4.9%でこちらも数を出すと 54 世帯しかないのですよね。でもそういう世帯が、たぶん父親にしる母親にしる、働きに行っているから、日中、親族か知人が誰かに見てもらっているか、保育園に通いながらなのか、でもいずれにしても、子どもとの接点が非常につきにくい家族ではありますよね。

委員

そうですね。子どもだけで暮らしているお家もありますし、学童クラブとトワイライト事業でつなげているお家もありますし、あとは祖父母や親族で見ている人もいます。

会長

そういったことで、朝を欠食するとか、夜は一人だけで食事をするとしたことにもつながりますよね。

委員

そういうお家もあります。9時過ぎまでお母さんが帰らないから、兄弟だけで食事をしたりしています。

会長

いくつかクロス集計のお話がありましたが、私の意見を言ってしまって申し訳ないので

すが、やはり、三世帯世帯はほとんどいっしょにない。いることはいますけれども、150世帯。三世帯世帯も入れてどうなのかという、逆にいえば三世帯世帯であれば、常勤で共働きもできるようになるとかもあるのかもしれませんが。だから三世帯世帯と核家族の中で、両親がいっしょに世帯と片親世帯で分ける。まあ、片親世帯のサンプルが非常に少ないので、あまり有意なものが出てこないかもしれませんが、そういう世帯類型で分けるというのと、子どもの年齢で、小学校の学齢期と学齢前、学齢前も0、1、2歳と3、4、5という2つで、全部で三類型に分けた時に、悩みとか希望とか、あるいは色々な保育サービスの利用状況がどうなのかというのを見て、何か特徴が出てくれば、こういう世帯でこういう年齢のパターンではこういう問題がよくある、ということが見えてくるのかな、という気がしますね。

委員

16ページの悩みはとてもよく出ていると思います。とても頷けます。

委員

今のお話でひとり親家庭のお話になりましたので、実は私のところは、本体が「母子生活支援施設」という、みなさんにはあまり知られていない施設なのですが、これは母親と子どもの生活の面倒を見る施設が本体であります。私どものところでは、20世帯の母子家庭の方が入所されていて、一応、2年くらいを目安に自立を目指すという形で私どもが援助をさせていただいております。

一番、大きな年代的なお話を簡単にさせていただくと、約10年前、20年前という、私が就職をしてはじめて会った時には、家族・兄弟・親戚というところに、ちょっと不義理とかいろんな形でもう二度とそこに戻れない、そこから昔で言う勘当という形で、生活の面倒を見てもらえない。今入所されている方のほとんどは、土日になると家に帰れる。これが一番の入所されている方達の違いなのです。ほとんどが、今よく言われていますDVという、ドメスティックバイオレンス等の被害を受けた方が入所されている。よく、うちの簡単なアンケートというか統計を見ますと、約6割の方が夫の暴力を受けて、そのまま逃げてきて、離婚も成立していないまま入所をする。それで、2割の方が、夫が逆に逃げて行ってしまって、母子家庭の状況になっている。そういう方たちの入所です。あとは、養育困難という形で、お子さんとの母子としての生活が成り立たないという形による生活の面倒を見るということです。

その時に、やはりいろんな理由があるのですが、ひとつは家事・育児のノウハウ、能力が、昔に比べてだいぶ落ちてきているというものは感じます。仕事のことは、その能力は非常にあって出来るのですが、やはり子どもさんとのコミュニケーションの取り方とか、自分の成育歴から持ってくる家族観というものがいないために、自分は一人でご飯を食べて、子どもは後で何か食べれば良いといったようなところが感じられたりという、やはりそのへんのコミュニケーションの不足を非常に感じるのが、最近の形ですね。それで、お父さんとかご両親がいっしょにいても、そこへ行って、お孫さんや子どもにあたる人をお預けして、自分はそこで息抜きをして遊びたいという、やはりそういう部分での子育てという部分では、やはり自分もまだ子どもなのかなということを非常に感じる方たちが多く見ら

れるということが現にあります。

会長

今、子育てという言葉のもう一つの言葉として、「親育て」、また「親育ち」をしてはじめて子育て支援になるのだという文句がありますよね。ですから、子どもだけでなく、親自身も、ちゃんと親としての役割を自覚してもらおうということも、どこかである程度必要なのではないかと。

それから、もう一つ庭山さんのほうに。ポップコーンのことで、文化センターの利用の方が多。これは逆にいえば、文化センターの数が多いということもありますけれども、ポップコーンの利用が4分の1ということについては何か。

委員

そうですね。現段階ではポップコーン事業を展開している場所が、まだ若干、少ないと思うのです。ましてや、ポップコーン事業を始めた1年目は、3ヶ所しかやっておりませんでしたので、自分の住まいから遠く離れてしまえば、行ってみたくても、行けない方が多かったのではないかと思います。よほど車が置ける、駐車場が完備されている、車も運転できて、という方でしたらいいですけども。

ポップコーン事業は、丸2年しか経っておりませんので、情報が行きわたっているかどうか疑問に思っていますし、又、今回のアンケート結果としては、知っていても使わない方もいらっしゃるようです。その理由には、距離的なこと、あと曜日や時間が決まっていますので、その曜日のその時間に行かなければいけないということがあると思います。文化センターは9:00~6:00のいつでもオープンですから、ちょっと夕方のおつかいの帰りに寄っても、午前中の好きな時間に行っても、それを利用したというふうにカウントできる。ですから利用するチャンスの幅が広いと思うのです。そしてそのように利用した方が、この数の大半なのではないかなと思います。

会長

逆にいうと、まだ事業を開始して間がないのに、4分の1が利用したことがあり、かつ7割の方が認知をしているということは、見方を変えればすばらしいことですよね。ただ、例えば、保育園であれば私立・公立合わせて30くらいある、幼稚園であれば20いくつある、それに対してポップコーンは6しかないという、そういう幼稚園や保育園という就学前の0、1、2歳に対する支援施策が相対的に少ないのかもしれないですね。

委員

やっと始まったばかりという印象を私はもっています。数多くいろいろなエリアで展開されるべきかなと思います。

会長

これもみなさんに、もうすでにご存知の方もいらっしゃるかもしれませんが、私がちょっとおもしろいなと思って、マッピングということ意識して、朝日新聞の割に最近出た

社説で、私も中身については知らないのですが、むしろご存知の方がいれば教えていただきたいのですが、長野市のベットタウンである須坂市ということで、長野市の周辺の市だと思うのですが、行政もいろいろとやっちはいるのですが、いろんな地域の人たちが、冒頭に浅田さんもおっしゃったように、地域のいろんな支援策があるということは分かってらっしゃるのだが、なかなかそれを行政も知らないし、地域の中にも知らない人が多い。ここもベットタウンということですので、外から来た人が多いと思うのですね。それで、地域の社会福祉協議会が、たぶん地域の自治会の方を使ってだと思いますが、地域にどういうボランティア的な活動があるのかという調査をしたら、本当に子どもが通学の途中でごく普通の民家に立ち寄って行くような子どもの居場所があるとか、そういうことをいろいろを発見したと。それでいろいろと地域にドットでマップに落としてみたら、そういうボランティア的な活動がすごく活発な地域と、ほとんどない地域とに明確に分かれたというのですね。それで、隣でこんなことをやっているのだというのがマップで分かったことによって、例えば、小児科のお医者さんを中心にした病児関係の保育サークルを作ってみようとかという、たぶん新しい地域住民の方々にネットワークのないところが、むしろじゃあ作れるのではないかとということをやってみたという。これはだから行政だけの仕事ではなくて、地域に住んでいらっしゃる方の相互扶助的なものをマップという形で、目に見える情報にしてやってみたら、こんなことができるという形に、情報発信になったということですよ。

これはものすごくおもしろいなということで。逆にいえば、こういう活動を支えるために、行政で何とかしてよということのほうが、たぶん行政もやりやすいのだろうし、何もかも行政に丸投げよりはおもしろいのではないかと。先ほど、かなり自治会だとか、学校の校外委員とかという形の活動がかなり活発だというお話で、たぶんやってらっしゃる方は実感しておありなんだろうけれども、意外に外の人には分からないし、あるいは行政もなかなか把握してらっしゃらない。そこで府中市の場合も、少し地図に落としてみたらどうか。あるいは、それをいきなりすぐには無理でしょうけれども、もしかしたら、この委員の皆さんも、例えば私の住んでいる周りでこういう活動があるのですよ、というのがあれば、分かるところだけでもいいから落としてみたら、どうだろうかと思ったのですが。

委員

府中市で、府中市福祉活動推進支援事業というのを15年度からはじめています。社会福祉協議会が市から委託を受けています。団体活動立ち上げの3年間、助成する事業です。それは申請方式で、第三者を含む認定審査会で認定しています。

会長

そういう制度があるのですね、府中市の場合は。

委員

あります。16年度も、社会福祉協議会が委託を受けてやっているので、それは子育て支援グループでもいいし、高齢者の問題でもいいし、どんな活動でも申請できます。助成金も年に10万まで、3年間の立ち上げまでで、軌道に乗れば後は自分達で活動する、とい

う事業をやっています。

委員

今の会長さんのお話をもとに、こういうのができれば確かにいいと思います。プライバシーをどこまで配慮しながらというのが問題で、これができた上での地図で。他市でもこういうことを引き受けていることがあると思います。PTAの会長さんも、いらっしゃるので、私もPTAのほうもやっていたけれども、ぜひ学校関係と地域で今の地域支援事業がどういう団体があるのかを表せたら、それは素晴らしい。

委員

確か15年度は8団体助成を受けただったという報告を受けています。

委員

地域の中でもやってらっしゃるところとないところとがある。そういうのを全部引っ張り出すことができれば、おもしろいと思います。

委員

自治会にも全部情報を流して。府中市に自治会連合会というのがありますが、そこに加盟しているのが175団体位と聞いています。3軒、4軒で町会のようにしているところもたくさんありますし、全部が自治会連合会に加盟しているとは限らないのです。全部で390団体位あると聞いています。

委員

今おもしろいのは、マンション建設にあたって、マンションを売り出すために地域の情報を一冊の本にしているのが、かなりマンションの周りの住民がそのマンションの説明会に行ったりすると頂いて、自分の地域のことが、これでよく、さらによくわかったというところがあって、やはり民間の目から見た調査というのがこういうふうな視点でなされるんだなというのが、これは是政の大きなマンションの冊子そうになっていたのですが、このみもざさんもそれに載っていたというので、おもしろい本があったので、誰が作ったというのが、民間のマンションで住民を獲得するために作られたものですが、これは子育ての視点ということで入っていましたし、あとペットだったらこの病院、小児科だったらここ、というのが表されていておもしろかったですね。

会長

そういう情報というのは、やはりプライバシーの問題もあるし、いきなり行って教えて下さいと言っても教えてくれないという問題もありますから、かなり時間をかけて、いろんな人間関係ができて、この人なら信頼できるという形で情報をくださる方もいらっしゃるだろうし。そういう意味では、地域情報というのは簡単なようで、きちんと整理をするとなると非常に難しいのですが、でもそれがある程度オープンにしていい情報だけでもまとまるだけで、ずいぶん地域の様子が見えてくるし、あるいはここに連絡すればとか、こ

ここに支援を求めれば、何かしてもらえるという意味では、すばらしい情報なのですよ。行政が、というとなかなか、仮に行政が知りえたとしても、それをなかなか行政の名前で公開するというのは難しい問題がありますけれども。逆にいうとこういうことは民間でないとできないし。

委員

情報ということでは「広報ふちゅう」にほとんど出ています。

会長

何にでているのですか。

委員

市で出している「広報ふちゅう」です。どんなことでもたいてい出ています。毎月1の日に出ていますから、月3回です。それをみなさん読み逃していらっしゃる人が多いですね。健康診断のことから、すべての事業がほとんど出ています。今日の会の傍聴のことも出ていますから、やはりお読みになるほうがお得だと思います。私は高齢者のお宅の訪問活動の際も、「広報ふちゅう」はぜひぜひお読みください、とお勧めしています。

会長

府中市はやることはないのですかね。

委員

新聞の折込みで全戸入っていますから、1の日に各「広報ふちゅう」と、社会福祉協議会を出す「ふちゅうの福祉」というのを読めば、ほとんどの情報は書かれていると思います。

会長

でもそれは、割に公的なものですか。プライベートなのというか、本当に、こうボランティアでやっている、NPOもそういう部分はありますけれども……。

委員

NPOのことも少し書いてあります。

会長

NPOの活動というか、どこにいけばどういう事業をやっているということが書いてあるわけですか。

委員

それは、社会福祉協議会が出している「ふちゅうの福祉」で、「みもざ」さんの紹介をしたり、「ぼぼ」さんの紹介をした記事が過去にあったと思います。

会長

例えば、どこにその事業所があるとか。

委員

それから、生涯学習センターでどういう講座をやっているとか、芸術劇場でどんなものをやっているとか、ほとんど書いてあります。

会長

では、私の問題意識を言いますと、例えば是政であるとか、白糸台とか、あまり私も知らないのだから付け焼刃で言っていますが、割に新住民の方が多いところで、それが本当に分かって利用しやすいようなネットワークができているのだろうか、ということがあります。それは先ほどの、長野市の周りの須坂市でも同じなのですが、結局、旧住民でその地域に長く住んでらっしゃる方は、その地域のいろいろな情報が入ってくる、あるいは市の広報以外でもいろんな口コミ情報が入ってくるけれども、入ってきてまだ1年も経たないという人たちに、そういう情報が本当にどう伝わるのかと。情報は流していますよ。流しているのですけれども、それを活かして使っていらっしゃらないのではないかと。

委員

今の世の中、自分が意識して情報を求めないと、何も情報は入らないと思います。私個人として考えても。やはり、意識して「広報ふちゅう」を読んだり、新聞を読んだりしています。

会長

もちろん、今の社会ですから、個人の自助努力でやりなさいと。情報がこれだけあるのだから、利用しないのはあなたが悪いと・・・。

委員

そういう意味ではないです。

会長

いや、でも、これだけ提供しているのだから、あとは利用するかしないかはあなたの選択ですよとって、手を離してしまってもいいのか、という問題ですよ。それは、そういう割り切り方もあるし、あなたの責任ですよとってね。でも、それに子どもが付随した場合、その子はどうなるのかということがあります。

委員

そういう意味ではなくて、やはり「広報ふちゅう」など読まれているいろいろな事業を利用されたほうがよいと思いますので、皆さんにはお勧めしているということです。

会長

でも逆に、出しているものを今のように「お読みなさい」といって地域の方が一言、声をかけてくれるのと、かけてくれないのではまた違いますよね。じゃあ、かけてくださるような隣人をどうやって身の周りにいるようにするのか。

委員

私の個人的な話になってしまいますけれども、まだ子どもが幼稚園に入る前に、住み慣れた土地から、府中の隣の市に越した経験があります。

越したとたん右も左も分からない状態で地域に入りました。

もちろん引っ越した時に、市からいろいろな資料はいただきましたが、「何々町」と書いてあっても、それが自分の住まいから近いのか遠いのか、今ひとつぴんときませんでした。ですから、子どもがけがをした時、外科はどこかと地図を開いているよりも、近くの児童館に飛び込んで相談することができたのが、とても心強かったのです。

府中市にも、そういう突然困った時に、ぱっと思い浮かぶところ、相談できるところ、飛び込めるところが、明確に提示してあればと思うのですが。

委員

民生・児童委員に来てくれればよいのですが。

委員

地域の民生委員のお名前や電話番号は、本当にとっさのときには思い出せないのです。ですから、そういった時のホットラインみたいなものがあると、助かるのではないかと思います。すみません、取り留めのない話になりましたが。

委員

そういう意味では、子ども玉手箱というのを、かなり大きく、見やすく作っていただいて、年々活動グループも増えて、あれはかなり好評ですよ。1、2年位前にできたものですか、4・5年前ですか。少量の情報からどんどん大きな情報へという流れですね。

委員

これは府中市民になった時に必ず全員に配られるものではないのですよね。

委員

ポップコーンでも新規の方に紹介したりしています。

委員

はい。私は今は知っているのですけれども。

委員

民生・児童委員も少し余分に頂いてきて、自分の地域にお配りしたりはしています。

委員

私が実際府中市民になったのは7年前くらいなので、その時は残念ながらありませんでした。ただその時は子どもも大きくなっていましたし、すでに地域に友人がいる所に越しましたので、友人に聞けばなんとかなるという状況でした。ただ、現在でも本当に遠方からお子様を抱えて越されてくる方々の中には、地域に慣れるまで困っておられる方がいらっしゃるのではないかなと。

会長

たぶん、とっさの時というのは、人間、常識がなくなってしまうわけですよね。冷静に考えられなくなっているときに、熱をさますとか、ちょっとした一声というような関係をできるだけ取りやすいような体制をどう作るかということで、たぶんメニュー的には相当なものがあると思うのですね。量的なものとか、地域的な配置がどうかというところはあるかもしれないけれども、メニュー的には相当あるけれど、それが本当に自分の身の回りでいざという時に使いやすいような配置になっているかという、これがたぶん、状況も変わりますし、例えば新しいマンションが建つとか、団地ができるといった形で、地域の様子もどんどん変わっていきますのでね。一端作ったと思ってもまたそれに穴ができたというものもあるのだと思うのですがね。

委員

先ほどから会長さんもおっしゃっている、0、1、2歳のお子さん方というところでも、相談窓口の認知度というものが31ページにもありましたが、保育所が5.4%と、市民医療センターの子育て相談室が18.6%ということで、これの中身を教えていただければありがたいです。解決できたこと、できなかったことがあったと思うのですが、そこで絶対に課題というのは見えてきていると思うのですね。医療センターではパンフレットを使っていたことも多いですので、すでにもらっていると。電話をくれた時点からもう資料はお持ちなのですね。そこで、口頭で説明をするという形をかなり取っておりまして、ほとんど医療センターの紹介です、と言ったらもう個々にチラシはお持ちです。そのへんの18.6%の中身と保育所のほうの5.4%の中身を洗い出していけたらどうかなと思うのですが。

会長

できますでしょうか。

富士総研

中身というのは、どういう世帯が利用しているかどうかということですか。

委員

私は直接医療センターの従事者の方、相談窓口の方に聞きたいと思いますし、保育所の方も、これも保育園での連合会とかでそのへんの情報交換がされている部分も多いのではないかなと思うのですけれども。

会長

今のお話は、この調査では出てこないけれども、実際そういうところでどういう相談がなされているのかということを知りたいということですね。

委員

そういうことも共有できれば、さらに深められるのではないかと思います。

会長

一応、2時間経ちましたので、とりあえずまだ発言されたい方からあと1つ、2つお聞きした後で、今後の進め方を最後にご相談したいと思うのですが、まだご発言ございますでしょうか。

委員

何度も申し訳ないのですが、先ほど16ページ「子育てについて日常悩んでいること」のお話がありましたので、ぜひ分析をする時に逆さまに、例えば20ページの病後児保育を利用したいという人の悩みを出してもらえると分りやすいかなと感じたのですが。

会長

少なくとも、今回の調査では・・・。

委員

16ページの分類に病後児保育の利用希望形態で、例えば36.8%が専用スペースで預かってくれるサービスというのを求めているわけですね。例えばその視点と、就学前で悩んでいるのが病気や発育に関することというのが一緒になるのかなと思ったものですから。

会長

それは逆にいえば、20ページの下で、利用希望と利用意向と両方重なる話ですね。

委員

悩みを軸にしたいというのが主旨なのですけれど。

会長

つまり、これで希望したいという利用意向を持っている人が、どういう悩みをもっているのかというのを、逆にこのクロスで分からないかと。サンプルが、一応それでも1800とかありますから、いくつかは出てくるとは思いますけれどもね。

委員

予想ですけれど、病気で悩んでいるというパーセンテージが高くなれば、本当に悩んでいるだろうなということが分かるのではないかな、というものですけれども。

会長

病気というのは別に自然現象ですから、出てくるものとは関係なしに起こってくることもありえますし、まして医療であれば、親が変わってやるということではできませんが、逆にいえば、医療施設との関連ということもありますね。保育園などで病後児保育をおやりになるうということがあるのですか。

委員

今しているのが、病後児保育だと言えるものがほとんどなのです。基本的に、病児はやはり、お医者さまがいなければいけないという前提があって、市の方でも一ヶ所でしたっけ？ありますけれど。回復する時期に、病気によって、私どもの預かり方があります。伝染病の子と、普通の体の調子が悪いくらいのものという区別もまた出てくるわけです。保護者が仕事で困っているから、預からざるを得ない部分もありますけれど。私どもも日常的に逆さまに、病前保育という言い方は変なのですけれども、お迎えが来ない間の病前保育というものをやっているのです。同じ形で病後児という概念に入れば、私どもも預かれるパターンだなとは思いました。

会長

確かに、読み取り方によっては、いろんなクロスの当て方があるなと思いますね。

委員

いいですか。私は今日は第3の資料については具体的にやらないのでしょうけれども、それなんか、府中市で実際にやってきている制度が網羅されていますよね。他の市より、たぶん子どもを連れて府中市に流入してくるというのは、いろんな制度があって、いろんなふうに便利だからということを情報として知っている方が結構入ってきているという話は、介護の仕事もしていますので、介護の仕事を通してそういう話はよく聞くのですけれども、やはり制度はたくさんあるし、受け皿はある。

私も仕事を通して感じるのは、やはり行政がやるべき仕事と、企業がやるべき仕事と、NPOを含めての民間がやる仕事、それぞれの役割がたぶんあるので、これまでは行政が市民の生活を守っていくという視点で、措置というかたちでいろんなことをずっとやってきた長い歴史があって、最近になって、やはりそれだけではできないのだと、埋められない部分をやはり民間とか、子育てをしている親が切実なる願いからいろんな動きが、などいろんな形からいろんなものが出てきたと思いますが、とりあえずは明確に行政はこれしかできないというものとか、企業はこれしかできない、民間はこれだけとか、役割を明確にしていって中で、ポップコーンなんかはもちろん行政の一環としてやっておりますけれど、そういうものが、また介護なんかでもデイケアセンターとかありますけれども、そういうものがポストの数ほどあることが、やはり利用しやすいということなので、特に働くお母さんとしては、朝子どもを預けていく、その何分がすごい戦いで、引き取りに来るときも、疲れ果てて引き取りに来るとか、そういうところをやりすぎるほどの手当てをする必要はないけれども、それぞれ行政が出来ること、民間が出来ること、企業ができることを網羅

していった、その選択肢がいっぱいある中で市民が選択をしていくという状況。

それで、中身も使いやすく。制度があるけれども使いにくいというのはいっぱいあるのですね。府中市はとは言いませんが、府中市も、ですけれども。そういうものは、やはり使いやすい制度で作られていかなければいけないし、使いやすいようにするためには、行政でできないところを民間でという、棲み分けを整理しながら、今回の子育ての次世代を担う人たちをいかにバックアップするかという制度なので、使いやすいことがまず第一。

それから、本当に、このアンケートからも読み取れるのは、制度がこれだけあるのに、知られていない。そういうのは、やはりもっと広報の活動をきちんと位置づけていくとか、そういうことを整理しながら議論をしていったほうがいいかなと思います。本当に、私たちの会員さんかも、介護にしても保育にしても、とても使いにくいというのが大きい声です。だから、使いやすくしていく。民間なんかは、行政ではできないこと、企業にはできない隙間を縫ってやっているのが、特に NPO なんかだと思うのですけれども、そういうところを、やはり行政として、国として、自治体として育てるといってもきちっと位置づけて市の政策を作っていく。そしてそのバックアップをきちんとしていながら、さっき言ったような、ポストの数ほど利用しやすいものがあることが何よりなので、そういう視点を持ってこの計画を作っていくことに参加していきたいと思っています。

会長

いろいろご意見がありまして、大変貴重なご意見がたくさんあったと思いますが、議事録以外に、今回からこういう議事要旨というものを作っていただきますので、次回の冒頭に、これをまたおさらいしながら、何の話を前回したのかという確認をしながら議論に参加していただければと思いますが、時間でございますので、今後のスケジュールについて、一応、今年度は今回が最後でございますけれども、新年度からいよいよ具体的な案をまとめるプロセスになります。市のほうから 2 案のスケジュール案をお示しいただいているので、これを参考にしながら議論を進めたいと思います。中身のご説明をしていただけますか。

子育て支援課長

少しご説明させていただきます。1 案、2 案の違いは、1 案は、この表でいきますと 5 月のところで分科会を設けまして、考え方としては就学前の班、就学児以降の 2 つの班に分けて、ニーズの現状の部分、それから現状を踏まえてどういう事業目標設定にするかというところを分科会で議論いただいたらどうかというのが 1 案です。案の 2 は、会そのものがあまりないので、分けなくて全部でいったらどうかという案です。いずれにしても、これらは裏にいきますと、最終が来年の 3 月に市としての計画をまとめるということになりますと、1 月には、この検討協議会のほうからご報告いただきたいと。表に戻っていただきまして、逆算して、8 月の段階で一度、中間の議論の取りまとめをいただいて、市としてはこの報告をいただいた時点で、議会のほうへも報告をしたいし、市民の方へ説明会という形で、現在こういうふうに議論されていますということをご報告して、ご意見を頂くと。そして、パブリックコメントを求めていくと。こういう手続きも合わせて行いたい

と思っております。そういう中で、今回2案をお示ししておりますけれども、現状分析・ニーズ把握、この部分を分科会で設けるか、全体で通していくかという部分を中心にご議論をいただきたいと思っております。

会長

日程が既に入っていますが、会議室の関係でこれを変更するというのもう難しいのでしょうか。

子育て支援課長

今、ここに書いてあるところは、取れているということです。ですから今後、これでもうしても合わないところがあれば、これに近いところで調整するというのは出てくると思います。

会長

1案、2案で、分科会という形を取って、分科会では就学前の子どものことを議論するグループと就学後の子どものことを議論するグループと、2つの班で、逆にいうと委員が二手に分かれますから、同じ時間であれば、かなり発言の濃密さは異なると思いますし、またそれぞれに関係の方に入らせていただくということになれば、そうとう議論が煮詰まる可能性があります。2回ずつ行うというのが1案です。1案のほうですと、分科会を作る関係上、全体会議が1回少なくなる。逆にいえば、分科会を入れれば、1案の方が出席回数が1回余計になるということで、皆さんにもご足労をお願いしなければならなくなるということでございます。

もう一つは、さきほどの地域の情報、あるいはお子さんや利用される方の情報というお話がありました。それを例えば市の方で既存のものがあれば、またご提示いただきますけれども、もし皆さんが、いろんな日常活動の中で、例えばこの地域のこういう人からこういう話を聞いたということが、もしおありになれば、いつの会議でも結構ですが、簡単にメモか何かをお作りいただいて、みなさんに配布をして、ごく簡単に説明していただくということで、特定にこの日だけみなさんのご意見を聞きます、というのではなくて、いつでも情報として入れていただいて、本論の議論が始まる前に報告いただいて、それをまた参考にしながら議論をしていくような形を取ったらどうかと思っております。そのために特別な公聴会とかはやりませんが、皆さんが色々な活動の中でこういうことを聞いたとか、こういう地域でこういうことがあったという情報がありましたら、ぜひ共有させていただきたいし、できたら地図上でこの地域でこういうことがあるとか、逆にいえば問題があったということも含めて、しるしをつけておいたらなと思っております。

進め方について、具体的には次回、何を議論するかということですが、ただいづれにしても8月、1案ですと6回目、2案ですと7回目には市の議会におおよその小旨のようなものをまとめてほしいというお話がございますので、その意味では、4月、5月、6月、7月、8月と、新年度に入って、4回から6回までにとりあえずの大きな柱立てみたいなものを少しまとめるという感じになります。ですから、時間があるようでないような感じなのですが。先ほど申し上げたように、細かい詰めは、もう少し時間があるにしても、細

かい小旨をどうするかということです。

それともう一つ、具体的な数量的なニーズのデータは、1案でも2案でもそうですが、5月の24日に出てくると。保育が具体的に何時ごろ使いたいかといったような数量的なデータは、5月の24日に出てくるといことです。それと、今日のクロス集計は、次回でしようか。

富士総研

次回でできる限りお出ししたいと思います。

会長

全部かどうかは分かりませんが、今日お話がありましたクロス集計については次回、ご説明をしていただいて、できれば中間報告に向けたとりあえずのたたき台みたいなものを行政の方から出していただいて、これはたぶん一番最後になると思います。まずは、今日の宿題の議論をたっぶりとしていただいた後で、最後に基本理念みたいなものを出していただいて、つまり行政のほうからそういう案が出てきたということを踏まえて、さらに議論をして中間報告につなげたいと思います。それでもう何かのたたき台ができたというのではなくて、あくまでも一つの検討の素材というものを、次回の最後に出していただいて、それを踏まえて、議論をしていくというようなイメージで行きたいのですけれども。

進め方、あるいは1案、2案の賛成・反対も含めてご意見がありましたらお願いします。委員会を分けるというのはいかがですか。分けない方がいいか、分けた方がいいか。もし分けるとすれば、自分はどちらに所属したいかを少し念頭において。

委員

分けた方がいいと思いますけれども。そのほうが十分討議ができるのではないかと思いますので1案に賛成です。

委員

私も賛成です。

会長

今、お二人くらいの方から1案に賛成ということが挙がりましたが。

副会長

先生、私も分科会をやったほうが、早くできるし、討議もできるし、というメリットは十分分かりますし、スケジュール的にもこちらのほうが楽だと思うのですけれども、入ってくるまでは、分科会に分けた方がいいと思っていたのですよ。でも、今日議論をしまして、もし分科会に分けるなら、就学前と就学後というように分けるのはちょっと違うのではないかなと意識もあるし、親が成長していくという過程をきちんと支援するのがこの全体の考え方ではないかなと思うと、やはりそれぞれにみなさんの意見が入った上で整合性があつた方がいいならば、分科会は設けない方がいいのかなという感想もあります。

もし設けるなら、0、1、2と3、4、5とそれ以降の3つにするか、そうすると大いに少なくなってしまいますから、そういう意味ではそれは技術的に無理だと思いますから、私は全体会でやった方が、少し見えてきたような気がするの、なんとかかなりそうだなという感想もあるものですから、全体会でやったほうがいいのではないかなと、単直に思っています。

委員
賛成。

会長
どちらに賛成ですか。

委員
分けないほうに賛成。

会長
2対2となりましたが。そうですね、14人という人数はかなり多いかなと思っておりましたけれど、結構前回からみなさん活発に発言をされてきているし、少しお互いの所属とか考え方が少し分りかけてきたから、分けて2回別々にやるよりも、という気がしないでもないですが。あまり私が先に感想を言ってしまうのもなんですが。いかがでしょうか。分ける案に賛成という方は。

委員
すみません。今日、私なんかもかなり突っ込んで、今ある現状から市民に対してやれていること、やれてこれなかったこと、というのがたくさんあると思うのですね。そういう情報がこういうアンケートにも出てこないし。私たちの知らない中で次の計画を立てるといことは、私もそんなことはもうしたくないので、このへんの情報量が全然足りないと思うのですよ。ここで共通認識をする上で。そういう意味においては、やはり1案くらいで、しっかりと情報提供をしていただいて、あるいはこの最後の33ページで自由意見からの抜粋ということで、新規に行くことではなくて、かなり今あるものについてこうしてほしいというものが大半だと思うのですね。そのへんをきちんと、これは今ここで検討していると、これはこの中で十分人さえいけばやれることかもしれない、という分析をきちんと次回までに出してもらって、そういうことから読み取っていくためにも、この2案で、到底済まないのではないかと私は思います。もし、2案のほうでいくのであれば、もっと間を詰めて、開催日時を増やしてもらいたいです。そういう意味で、1案を希望したのですが、2案になるのであれば、このスケジュールだけで開催するのは非常に困難ではないかと思えます。私自身は、逆にそういう府中市の子育て支援についてはかなり自分も育ててきて、地域と関わり合ってやってきて、今NPOという団体でやっているから見えるのであって、ですがそうであったとしてもまだまだ、本当の現場で対応している「しらとり」さんとか、医療センターとかの方々の、市民からいろいろ相談を受けていることを全部把

握しておりませんし、そういう意味でも2案に関してはかなり、これで叩いていけるのでしょうか、というように思うのですが。

会長

私は最初から、この地図ということをお願いして、今府中市全体、それからエリアごとの地図を作っていて、やはり、かなり府中市全体といっても地域によって問題状況が違うわけですね。そういう深い細部に踏み込んでいかないと、全般的で抽象的なことだけでは駄目で、確かにいろんな施策があるわけですね。それがこの地域では足りているけれど、この地域には不足だという、その部分を補正するというのも大切だし、今後の10年間の新しい課題に対応するというのもありますが、当面今の課題を解決していく中で、いろんな手法も学ぶし、あるいはそういう支援をする人材の育成もできていくのだから、やはり地域のニーズなり課題の把握をしていくという方法論を確立していくというのは非常に重要だと思うのですよね。その意味では、行政のほうから、例えばこの事業について今どういう課題を認識しているかとか。あるいはこういうことを今予定されているという話も聞いた上で、調査と合わせて、じゃあこういう方向はどうだろうか、とか、あるいは先ほどもあったように、行政の役割と民間の役割というのをどうするべきなのか、という議論をしていく。例えば、この地域では何が活用できるのだろうか、ということも合わせて計画の中に書いていくということで、計画がより具体性を帯びてくると思えます。それを全体会で時間を確保してやったほうがいいのか、分科会でそれぞれおさらばして、何をやっているか分からない状況で3回目にまた合体するというやり方がいいのかということですね。

もう一回増やすというのは、物理的に可能ですか。

子育て支援課長

全体の流れはできます。

会長

じゃあみなさん、それでよろしいですか。

委員

やはり、いろんな立場の方がいらっしゃるから、2つに分けるということがメリットになるのかどうか。出てくる意見の均衡というか、バランスを考えると、全体で揉んでいったほうが、いろんな意見が出ていいのではないかという気がしますけれども。

会長

それでは、会議の予定もありますけれども、できればもう一回会議を増やしていただいて、それぞれ分科会でおやりになろうとしている就学前の議論を中心にする会を一回と、就学後の内容を議論する会を一回という形で、それぞれテーマを設定したような会議をやるということで、合体するという2案のほうをメインでやっていくということによろしいでしょうか。

それで、とりあえず次回、4月27日ですけれども、先ほど色々出ましたクロス集計のデータをまたご説明していただきながら、今日の議論をより深く掘り下げて、具体的な府中市の課題がどうなのか、その課題がどういう地域にあるのか、あるいはどういう世帯なりどういう年齢の子どもにそういう問題が起こりやすいのかということ、できるだけ皆さんで認識し、議論していきたいと思います。

委員

これには教育委員会も参加されるということを知ったと思うのですが、それはどこでどういうふうに入ってくるのですか。

子育て支援課長

教育委員会に限らず、今回資料3の説明はしていませんが、7項目をすべて割り振っていきますと、相当の部が当然関連してまいります。ですから、例えば資料3でいきますと、ここに市の現状の施策なりをまとめていくには、庁内関係課を集めた別の会議を我々のほうは作りますので、そこで議論したものをこちらで出させていただくということです。それから、毎回、どこが飛び出してくるのかわからないような形で、何十人とここに来れませんので、もしこの会議で指定されて、では次回特にこの部分について現場の担当の方まで聞きたいと指定してもらえれば、それはできると思います。そういう形でやらせていただきます。

会長

例えば、今、2案という方向でいきましたので、5月は2回予定されていますよね。今、それぞれの会議で就学前と就学後という両方の議論をしているのですけれども、例えば1回は就学前、2回目は就学後ということであれば、就学後のほうで例えば学童保育とか、校外のいろんな活動、教育活動とか、社会教育関係という形のものというところで、具体的にある程度何を議論するのかを決めないと、いきなり来られても即答できないという可能性もありますから、少なくとも次回というか、前回の最後に次回はこういうことをテーマで議論するから、教育委員会の担当の方に来ていただきたいというような形で、我々自身も、進行中である程度決めていかないといけませんので、とりあえず4月27日のおおよその進行計画だけご理解いただいて、また具体的な5月のそれぞれの中身については、今、一部分けるという方向で申し上げましたけれども、具体的にどういうことを中心的に議論するかということは、また次回の終わりごろに皆さんのご意見を踏まえながら決めていきたいと思います。

子育て支援課長

すみません。連絡をお願いします。まず、次回の検討協議会ですが、この今の資料では4月27日火曜日午後1時となっていますが、今まで通り、会議は2時からということで、4月27日は午後2時から、今度は北庁舎の3階第6会議室ということになりますので、よろしくお願い致します。

それからもう1点、前回第2回の議事録ですが、それぞれお目通しいただいて確認いた

だいておりますが、もし今日の時点で何かあれば担当の方へお願い致します。なければ、公開の手続きを取らせていただきます。以上でございます。

会長

それでは、特別なお発言がなければ時間がきましたので、これで終わらせていただきます。どうもありがとうございました。

以上